

パートナーシップ活動助成 (平成23年度 被災地支援)

活動報告会

平成23年10月29日

協働と参画のフラットホーム

(神戸市市民参画推進局参画推進部地域力強化推進課)

目次（会場②：会議室（2-4）開催分）

「1次募集 採択団体」

炊き出し、現地支援の為の調整 （神戸ガレキ撤去復興支援隊）	・・・10 ページ上
被災地への医療・福祉・ボランティアの物的人的支援および助言活動 （ろっこう医療生活協同組合）	・・・10 ページ下
被災地の臨時災害FMラジオ局の多言語放送支援 （特定非営利活動法人 エフエムわいわい）	・・・11 ページ上
「Come Back Project」東北関東大地震支援 （神戸ユニバーサル研究会）	・・・11 ページ下
ご恩返しプロジェクト （認定NPO法人 市民活動センター神戸）	・・・12 ページ上
学校とコミュニティラジオを通じたコミュニティ再生支援 （特定非営利活動法人 SEEDS Asia）	・・・12 ページ下
東日本大震災復興支援 生活支援及びボランティア現場コーディネイト （縁の下のもぐら）	・・・13 ページ上
被災者への様々なニーズに合わせた支援活動 （神戸公務員ボランティア）	・・・13 ページ下

「2次募集 ①東日本大震災の被災地における支援活動」

ボランティアバスまごころ便 （不良ボランティアを集める会）	・・・14 ページ上
被災地への医療・生活支援 （医療法人 神戸健康共和国）	・・・14 ページ下
東日本大震災の被災地における支援活動 （特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会）	・・・15 ページ上
寄り添い型の被災者支援活動 （真野地区まちづくり推進会）	・・・15 ページ下
被災地における活動 （神戸国際支縁機構）	・・・16 ページ上
被災地支援 （ともだちin神戸）	・・・16 ページ下

「2次募集 ②東日本大震災の被災地から神戸市内に避難して来られた方を支援する活動」

県外避難者さんへの「歓迎ピクニック」「みちのく・だんわ室」の開催 （東日本大震災・暮らしサポート隊）	・・・17 ページ上
---	------------

「2次募集 ③被災地の市民団体等と交流し、阪神・淡路大震災の経験やノウハウを伝える活動」

神戸市立明親小学校と陸前高田市立小学校、2コマまんがで交流の架け橋を！ （2コマまんが笑顔交流団）	・・・17 ページ下
被災者と直接相談（法律相談、建築相談）とシンポジウムの開催 （兵庫県震災復興研究センター）	・・・18 ページ上
10000 灯のキャンドルナイト ～想い一つに 心を込めて灯を～ （社団法人 神戸青年会議所）	・・・18 ページ下

会議室（2-4）

会 場

炊き出し、現地支援の為の調整活動

—神戸ガレキ撤去復興支援隊—



震災から耐えた寒さを一気に吹き飛ばす風景の中、被災地への春の訪れを感じて私たち一行は4月25日、神戸市内の小学生が被災地への応援メッセージを書き込んだ白地のこいのぼりを持参し、いわき市四倉町へと急ぎました。

四倉町は震災で8メートルの津波が押し寄せ、町の各施設、砂浜、海水浴場は壊滅的な被害を受け、大震災から一月余経っても、復興への道標が示されない中、春の訪れをも感じることができない。

四倉支所へは12時に到着。こいのぼりの伝達式を行い、子ども達に、こう伝えた。『神戸の子ども達も、この災害には大きな関心を寄せ、一日も早い復興とみんなが元気を取り戻せるようにと祈念するメッセージが多くの子も達によって書き込まれています。そして神戸とこの地は遠く離れていますが、大空で思いはつながっています』と伝えると、四倉の子ども達は安心したように微笑み、「私たちもしっかりがんばっていきます」。との返答がすぐさま返ってきました。

一瞬、胸が熱くなり、子ども達から返ってきた言葉に、私たち大人が大きな勇気を貰った思いがしました。

当初、校庭でのお披露目を、校長に御願した際、文部科学省からの通達が、福島に住む人たちへの原発事故の影響は日々の生活を蝕んできており、復興への大きな足かせとなっている状況を見ました。

先日も、近隣の自治体が福島県民を受け入れるのに、放射能の検査証明を要求し、全国から大きなひんしゆくを買ったばかりで、この災害への復興は日本全国のみならず全世界の関心事でもあります。

全国民がこの苦難を共有し、そして喜びを分かちあえる事を信じて見据えれば、必ずやその日を向かえることが出来ると、確信。東北の詩人、土井晩翠の「雨と嵐の荒れたあとに、必ず晴れ渡る日が来る」。

その一詩が今よみがえり、冬は必ず春となる。

被災地への医療・福祉・ボランティアの物的人的支援及び助言活動

—ろっこう医療生活協同組合—



私たちは、3月11日の東日本大震災発生直後から、現地の福島市および大船渡市方面への支援活動に取り組んできました。

【直後の支援内容】第一陣 3/15-16

・東京電力福島第一原発のまさに水素爆発が発生した混乱期に、福島県福島市内で医療介護事業に従事する「福島中央市民医療生活協同組合」へ、医薬品および点滴液ほか医療消耗品を2人が持てるだけ持って空路で現地入りし届け、現地の状況を視察しました。

【直後の支援内容】第二陣 4/8-18

・第一陣の情報を踏まえ、医師も含めて福島市内へ再度訪問、現地スタッフと避難所への支援行動に同行し、ボランティア活動に従事、併せて避難所での健康相談や医療活動の支援も行いました。

【直後の支援内容】第三陣 4/8-10

・津波被害の大きい陸前高田市および大船渡市内へ訪問、現地の大船渡病院への訪問と併せて避難所への支援行動に従事しました。

【被災地市民との交流の内容】8/6

・原発被害に苦しむ福島の被災者を神戸に招き、多くの神戸市民の参加のもとで現地の様子を詳しく報告してもらい、現地の困難な実状を共有化し、これからの長い支援について気持ちを新たにしました。



被災地の臨時災害FMラジオ局の多言語放送支援

—特定非営利活動法人 エフエムわいわい—

- (1) 被災外国人向け多言語音声情報の提供・・・連携団体:特非多言語センターFACIL、活用ラジオ局:9局
被災地のニーズに対応した被災外国人向けに多言語音声情報の音声素材を臨時災害FM局などに提供。
- (2) ラジオ受信機の配布・・・連携団体:オックスファム・ジャパン、配布台数:600台
ラジオ受信機を香港経由で調達し、臨時災害FM局、被災者支援グループ、外国人支援団体などに配布。
- (3) 私のラジオを届けてね!キャンペーンの実施・・・連携団体:長田区役所・KOBE 鉄人プロジェクト
神戸市長田区で、地域の方々がお持ちのラジオ受信機を被災地に届けるためのキャンペーンを実施中。
- (4) 臨時災害FM局への機材支援・・・連携局:BHNテレコム支援協議会、仙台メディアテーク
臨時災害FM局の放送同時録音用および音声編集用ノートパソコンとハードディスクドライブを提供。
- (5) その他、南三陸町(宮城県)臨時災害FM局の立ち上げ支援、BHNテレコム支援協議会と連携した無線従事者のマッチングやコミュニティ再建のツールとなる多様な住民参加によるコミュニティラジオ局の開設をなどの被災地における支援活動を実施しました。



「Come Back Project」東北関東大震災支援

—神戸ユニバーサル研究会—

3月19日、宮城県石巻市の避難所で東日本大震災の避難者の状況を確認しました。

避難所の多くは、狭い場所にすし詰め状態となっており、特に障がい者を持つご家族にとって、周りの事を気にするが故に避難所を離れ、車の中や倒壊寸前の家の中で生活する人がいる現実を知り、その様なご家族に対し、被災地を離れ大阪府や兵庫県に来て頂き、生活の基盤を立て直して頂き、心身のケアをして頂くためのプロジェクトを企画しました。

3月25日～30日は、現地の障がい者を支援している団体と接見。5月2日～5日は、現地のニーズ調査と泥かきのお手伝い。7月から8月にかけて計3回、障がい者施設とその地域の泥かきなどの支援を行いました。移住したくてもできない被災者の事情を踏まえ、期間を決め、少しの時間だけでも関西に来て頂き、心身のケアをして頂けるようプログラムした結果、現在まで福島県から4組のご家族が来られ、その内、1家族が神戸市に移住されることとなりました。これからも地域のご協力を得ながら、プログラムを継続していきたいと考えております。



ご恩返しプロジェクト

—認定NPO法人 市民活動センター神戸—

震災直後より被災地と兵庫の支援団体間の連携体制を作り、遠隔地から継続的な支援を進めています。

1. 震災直後の3月20日に緊急集会を開催し、兵庫県下NPOがネットワーク力を発揮して被災地支援に取り組むきっかけを作りました。その後も互いの支援活動についての情報交換と知恵を出し合う場を定期的で開催しています。
2. 現地の被災者支援団体を資金的に支援すべく「被災地NPO応援基金」を一般より募り、これまで7団体に計250万円を助成しました。
3. 当会の直接の支援先は福島県とし、現地中間支援団体「うつくしまNPOネットワーク」にスタッフを1名派遣。現地では福島県内NPO間の支援ネットワーク構築と活動支援を担う「絆づくり支援事業」コーディネーターとして、県内各地の支援センター運営のサポート、行政など関係者間の連絡調整、また被災者に対する相談窓口、仮設住宅、被災自治体などへの訪問などの業務を担当しています。



学校とコミュニティラジオを通じたコミュニティ再生支援

—特定非営利活動法人 SEEDS Asia—

「SEEDS Asia」は、4月に岩手県・宮城県の沿岸被災地域を訪問し、支援ニーズの調査を行った結果、宮城県気仙沼市で支援活動を行うことを決定しました。

第一に、全国で唯一環境防災科を設置する兵庫県立舞子高校との協働による、気仙沼市内の学校やコミュニティとの交流活動を通して、既往災害の経験の共有や災害教訓の発掘・継承を行っています。7月には、気仙沼市大谷地区を訪問し、大谷中学校と復興後のまちの姿について考えるワークショップや、仮設住宅でのお茶会等の交流活動を実施しました。

第二に、気仙沼市の地元団体「気仙沼復興協会（KRA）」との協働による仮設住宅の見守り活動を進めています。KRAは震災により失職した方々に復興支援に関する職を提供しています。

SEEDS Asiaは、6月より気仙沼に専従スタッフを配置し、KRAとともに仮設住宅でのお茶会活動を通して、仮設住宅の居住者がお互いの顔を知り、コミュニティ活動に向けて話し合いができる場を提供しています。また、コミュニティペーパーの配布による情報共有も開始しており、今後、コミュニティラジオの導入可能性について検討していきます。



東日本大震災復興支援、生活支援及びボランティア現場コーディネート

—縁の下のもぐら—

私たちの団体は地震発生当日深夜に神戸を出発し、これまでの災害復旧復興支援活動で協力してきた団体・個人と連絡を密にして現地入りし、宮城県名取市のNPO 法人ドリーム・ゲートに集まり、個々の情報を共有、それぞれの今後の活動を確認しました。

その後、ボランティア等により支援を行う家屋などで、作業に必要な事前準備を行った。また、チェーン・ソーやエンジン・カッター及びバック・フォア等を用いた瓦礫撤去やドロの除去作業を行うと共に、床上げなどのボランティア活動を円滑に行うための研修会を開催し、多くの車両系建設機械 技能講習・特別講習修了者等が参加しました。

活動の後押しとして、神戸からの出発したボランティアバスの参加者から、数名を別働隊として活動してもらうことで、より小回りのきく、住民に近づいたボランティアとして行動を起こしてもらうための車両の運用や、ドライバー派遣等の協力、さらに、足湯活動や手芸を通じたふれあい活動に貢献しました。

その他、ボランティアセンターの運営事務や事務所環境整備などの支援（宮城県山元町）・フォークリフトの寄贈による地元支援の仲介、寄贈式のコーディネート（宮城県石巻市荻浜）等の活動を実施しました。

<上記活動の主な協力団体、および活動地>

大船渡災害ボランティアセンター（岩手県大船渡町）、石巻災害復興協議会（宮城県石巻市）

山元町おてらボランティアセンター（宮城県山元町）、遠野まごころネット（陸前高田、大槌町など）

被災者への様々なニーズに合わせた支援活動

—神戸公務員ボランティア—

- 日程： 2011年5月21日（神戸出発） 支援活動 5月22日～25日 参加人数：19人
- 支援活動の場所： 宮城県南三陸町（志津川高校避難所を拠点に町内で活動）
- 活動内容
 - 1、弁護士・司法書士による被災者対象の法律相談及び生活相談
（5月22日・ベイサイドアリーナ、5月23日志津川高校避難所）
 - 2、神戸大学足湯隊による足湯の実施（5月23日・24日志津川高校避難所）
 - 3、いかなごの釘煮パックの提供（神戸からのメッセージ付）
 - 4、仮設住宅への日常生活用品の搬入支援（平成の森仮設住宅、ボラセンを通じた活動）
 - 5、回収したアルバム等の洗浄活動（思い出探し隊）の支援（ボラセンを通じた活動）
 - 6、避難所の被災者との交流会の実施
 - 7、避難所の救援物資の整理とフリーマーケットの支援
 - 8、避難所での食事・炊き出しの配食支援
 - 9、演奏や紙芝居の上演（避難所、ベイサイドアリーナ、FM南三陸など）
- ★ 9月10日、志津川高校避難所のリーダー3人を神戸に招いて交流会を開催、70人が参加。今後の継続的な支援体制を検討中。



ボランティアバスまごころ便

—不良ボランティアを集める会—

～何もできないかもしれないから、何でもできる～

神戸からバスで被災地に行きます。神戸から岩手県遠野までのルート上で待ち合わせ、一緒に被災地に行きましょう。ボランティアは気持ちが一番重要です。現地のニーズは多様にあります（活動内容は遠野まごころネットから要請されますが、気づいたことは何でもしてください）。その中で皆様一人一人の気持ちに沿って、自分で選択し、活躍していただきたく思います。裏方も含めてのボランティア。体力に自信のない方でも大丈夫。自分にできることをしていきましょう。

宿泊場所は、遠野まごころネット内にある体育館を使用させていただきます。遠野はボランティアの中継地点としての役割があり、物資の調達なども可能です。柳田國男の遠野物語で有名。自然豊かな、心のふるさとと呼べる場所です。

多様なボランティアを集めたいので、福祉バスも検討しています。東北地方ですが、活動時間の日中は関東、関西地方と同じぐらいの気温です。夜はさすがに東北です。肌寒いです。畳の上で寝袋を使って寝てもらいます。

僕らも含め皆不安ながらも頑張っています。一緒に相談しながら動きましょう。何でもお気軽に問い合わせください。現場やボランティアセンターを支えている力の1つは一人一人の勇気です。皆様のご参加、ご協力をお待ちしております！



被災地への医療・生活支援

—医療法人 神戸健康共和国—



3月11日に法人の神戸健康共和国の対策本部を立ち上げ、情報収集とともに先遣隊の派遣を決定。まず、13日～19日まで、先遣隊3名が、続いて15日～19日まで、「緊急車両証」をつけ、支援物資を積んだレンタカーで向かう。

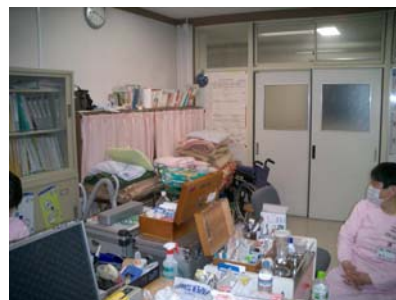
以降、20日～26日（3名）、26日～4/1（7名）が現地に入り支援活動を行いました。このほか、岩手県へ医師2名、看護師2名が被災地に入り、支援活動を行いました。

「阪神大震災とは規模も質も違います」と現地からの報告を受け、長町病院では、リハビリ訓練室を20床の災害病棟に改装。通常なら退院が可能な患者の方が家に帰れない状況もあり、「ショートステイ」的な役割の病棟として受け入れることにより、医療が必要な方が入院できる環境をつくるなど、阪神大震災の教訓で「私たちは神戸に帰る。支援のしっばなしでなく、残った地元の方がそのまま活用できる支援システムの構築が大事」と活動内容にこだわりました。

地域まわりではがれきの片付けや高齢世帯の雪かき（通路確保）などの活動でがれきの片付け作業を側面からサポートしました。

震災直後の支援に続き、生活支援を5月の連休と7月に行いました。

泥出しや畑の清掃・整備、そして被災者訪問での要望聞き取りなどを続けて行い、この活動は、他の神戸の仲間とともにいまだに続いています。



東日本大震災の被災地における支援活動

—特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会—

3月31日より、宮城県気仙沼市災害対策本部からの要請により、気仙沼市立面瀬中学校避難所を拠点に、避難所ケア・在宅ケアを実施。医療・生活相談・心のケア・巡回診療のコーディネーター・子供の遊び・在宅訪問・安否確認・環境整備・感染予防・自治組織づくりなどのお手伝い等を行いました。

災害初動時は400人の避難者であったが、6月1日以降は300人と減少、6月30日には14世帯45名（男性25名、女性20名）にまで減少し、9月13日には全員仮設等への移動が完了しました。

9月16日には市民の方々とともに体育館を掃除、午後に学校へお返ししました。

避難所閉鎖後、同敷地内に設置された仮設住宅集会所を拠点に仮設住宅及び在宅支援活動を継続して実施しており、これまで医師・看護師・福祉関係者を延べ200名、611日間、派遣しました。



寄り添い型の被災者支援活動

—真野地区まちづくり推進会—



阪神・淡路大震災の被災市民として、私達はその経験を、今こそ行政と共に手を携えて、東日本大震災の被災市民の復旧・復興のサポートに努めそして、寄与しなければなりません。

私達は、阪神・淡路大震災以降の自然災害に際しては、スタッフ等の派遣を重ねることで、被災者の懐に深く飛び込み、被災者と共に復興の道を探って来ました。

今回、その経験則を生かした『寄り添い型の支援活動』を展開しています。具体的には、①仮設住宅が急ピッチで建設されたことによる、不具合等の対応改善作業として、建築士、大工等の有資格者の同行により、仮設住宅の諸問題点に対応する活動、②比較的交通の不便な立地する仮設住宅において、展開する寄り添い型の活動、③美容師による整髪活動などを行いました。

【活動経過】（直後～6月末日分は省略）

7月1日～同月4日、8月5日～同月7日、

美容師による整髪活動、建築士による建築相談会、支援物資運搬

9月2日～同月4日 / 9月2日～同月11日 / 9月2日～同月14日

美容師による整髪活動、建築士による建築相談会、支援物資運搬、現地ボラセンとの協働活動

9月16日～同月25日 / 9月23日～同月25日

仮設住宅改善工事施工、支援物資運搬、美容師による整髪活動、建築士による建築相談会



被災地における活動

—神戸国際支縁機構—

月に一回、石巻市渡波を中心に、石巻市牡鹿半島にボランティア活動を繰り広げています。

[期 間] 活動開始日：2011年3月14日 活動日数：192日。

[人 数] スタッフ14人、ボランティアリーダー5人、
ボランティアのべ212人。

[活動場所・拠点]

宮城県石巻市渡波町三丁目、宮城県石巻市牡鹿半島名振コミュニティセンター、船越小学校、宮城県石巻市渡波字根岸前78、79番地。

[支援の対象者]

石巻市渡波町被災者、避難所（待機所）、仮設住宅、小学校、中学校、幼稚園、保育園など。牡鹿半島の名振、鮫浦、大谷川、谷川、祝浜等、石巻市渡波町、鹿妻町等。

[活動内容]

重機の提供によるがれき処理により、道路などのライフラインの復旧が進みました。また、発電機提供により、渡波地域において冠水がなくなりました。生活排水と田んぼの排水の復旧につながりました。

これらにより、現地の失業者の雇用促進がされました。

その他、教育機関の必要備品の提供。水田の無農薬、ふゆみずたんぼの計画により、農家の8割を廃業に追い込んだ渡波60町歩の田で復興組合を設立する契機になりました。

ゆくゆくは福島県、岩手県にも拡充し、失業している被災者が第一次産業である漁業、農業、林業の雇用に貢献するとともに、被災者たちの生活基盤を確立し、雇用環境を整えたいと考えています。

9月26日、石巻市渡波地域農業復興組合から「福幸米」を栽培するため、水田を「農」とするための活動を私たちの団体にゆだねられ、今後、月に一回、田んぼのがれき処理、除草除去、土壌改良を行い、NPO田んぼ、東北大学、大崎市や石巻市の行政、石巻市鹿妻小学校等との協働で、米を作っていく予定です。



被災地支援活動

—ともだち in 神戸—



- 1、活動場所 宮城県名取市
- 2、協力 国際交流協会ともだち in 名取（現地ボランティア）
- 3、日程 平成23年8月20日～22日
- 4、活動者数 6名
- 5、活動内容

1) 仮設住宅での健康相談会

名取市内の4か所の仮設住宅で実施。保健師や健康運動指導士により、血圧測定や個別健康相談、健康体操を行いました。また、神戸市の小学生より「しあわせ運べるように」を合唱した。延べ60名ほどの参加がありました。参加者は体操により、リフレッシュできた様子でした。また、個別相談の中で、心身のストレスを吐露する方もありました。「しあわせ運べるように」は、参加者のほとんどの方が、涙ながらに聴き入っていただくことができました。

2) 民間賃貸住宅等への自力で避難している方への戸別訪問活動を通じた心のケアを、3件訪問を行いました。

3) 仮設住宅集会所での物資整理

4) 仮設住宅住民への物資配布

<今後の予定>

平成23年11月19日（土）～11月22日（火）の4日間の日程で、現地ボランティア活動を行う予定です。また、8月のボランティア活動で得た情報と仮設住宅にお住まいの方々のニーズをもとに、継続可能で息の長い活動にしていくためのツールとして、現在、体操スタンプカード式ハガキを作成中です。



県外避難者さんへの「歓迎ピクニック」「みちのく・だんわ室」の開催

—東日本大震災・暮らしサポート隊—

1. 県外避難者支援

被災地から神戸市を中心に関西に避難されてきている方々のGrief Car（悲嘆緩和）のための癒しの場「みちのく だんわ室」を6月から毎月1回、開催しており、参加者は毎回、30～50名に及びます。

2. 被災地支援

「暮らしサポート隊・仮設住宅コミュニティづくり支援班（仮コミ班）」を結成し、宮城県亘理町と福島県いわき市の仮設住宅で現地支援活動を行っており、6月初めからほぼ1カ月ごとに数日間、数名で支援活動に出かけています。

亘理町では、「亘理町・仮設住宅コミュニティアドバイザー」の任命を受け、町と協働で住民自治を育むために、仮設コミュニティづくりのための懇談会や仮設住宅快適居住改造モデルなどを行いました。

いわき市ではいわきNTに3市町（いわき市、楢葉町、広野町）の仮設住宅が約1000戸、10余地区に分散して建設されますが、地区単位の仮設コミュニティ、3市町の仮設入居者の融合、ニュータウン住民との融合など特有の課題があります。それらの課題解決のため、いわきNPOネットワーク会議が結成され、仮設コミュニティづくりの話を行うなど、地元支援組織の相談役等を担っています。



神戸市立明親小学校と陸前高田市立小学校、2コマまんがで交流の架け橋を！

—2コマまんが笑顔交流団—

5月16日、神戸市立明親小学校で2コマまんがの出張授業を行い、103名の5年生が描いた作品を、6月13日岩手県陸前高田市立広田小学校へ届けました。

また、6月14日には広田小学校で2コマまんが出張授業を実施、完成した作品を6月15日神戸へ持ち帰り、6月21日、神戸市立明親小学校で岩手での授業の報告会をスライドを使って行いました。

活動により達成された効果として同じ小学生が描いたマンガを見てもらうことで、被災地子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらうことができました。また、この活動を通して地域交流もおこなわれ明親小学校校区内の商店街からの義援金で広田小学校の生徒が遠足に行く事が出来るなど、神戸と岩手の小学校、地域の交流の掛け橋になったと思います。



被災者と直接相談会（法律相談、建築相談）とシンポジウムの開催

—兵庫県震災復興研究センター—



自然災害の地震、津波に、人災と表される放射能汚染という、人類史上初にして、最悪三重苦に加えて、失業、廃業や多重ローンが一時に襲いかかった今回の「東日本大震災」では、自分の生命以外のすべてを失った多数の被災者が、放置されている状態が明らかになってきており、阪神・淡路大震災の経験をフル動員、フル稼働しても、手に余る状態ではないかと思われます。

私たちは、1995年1月の阪神・淡路大震災を契機に、学者・研究者、建築士、弁護士等が結集した、まさに専門家集団として、調査・研究とそれらをもとにした50数本の各種提言を作成・発信し、被災者救済のための活動を続けてきました。

今回の東日本大震災発生直後から被災現場に赴き、視察・調査を重ねつつ、被災者や被災者のサポーターとの交流を重ね、併せて神戸市内でも緊急シンポジウムを開催するなど、内外からの支援を展開しています。

今後も引き続き、東日本大震災被災者との緊密なる連携・協力のもとに、被災者救済のための活動に取り組んでいきます。

【活動の経過】

3月13日 緊急会議開催（18人出席）

5月28日 救援・復興支援シンポジウム開催（54人出席）

8月4日～7日 現地調査及び交流懇談・相談会開催

9月29日 岩手大学等の研究者・学生を神戸に招き、阪神・淡路大震災の復興等について説明

10月4日 宮城県亘理町の仮設住宅を訪問し交流・懇談会実施

※来年3月末までに再度シンポジウム開催と被災地訪問を実施予定



10000灯のキャンドルナイト ～想い一つに 心を込めて灯を～

—社団法人 神戸青年会議所—



8月11日（木）から13日（土）に宮城県気仙沼市で開催された「港けせんぬま復活祭」に参画し、8月12日（金）に開催された「10000灯のキャンドルナイト～想い一つに 心を込めて灯を～」の企画、設営、実施を担いました。

● 神戸でのキャンドルメッセージ募集

7月17日・18日 第10回 Kobe Love Port・みなとまつりにてメッセージの募集活動

7月23日・24日 三宮センター街にてメッセージの募集活動

被災地に送る応援メッセージを募集し、5000枚を超えるメッセージを集めることができました。

● 神戸で子ども用の浴衣、甚平を支援物資として募集

200着を超える浴衣、甚平を神戸市民ならびに近郊に住まわれる方々からご提供頂きました。

● 気仙沼でのキャンドルメッセージ募集

気仙沼青年会議所にご協力いただき、8月3日、宮城県気仙沼にてメッセージの募集活動を開始し、事前募集から当日募集まで行いました。

● 当日の設営

8月12日 神戸と気仙沼で集めた10000灯のキャンドルで文字を描きました【図柄の大きさ 約20m×20m】

キャンドルの火は神戸の「1.17 希望の灯り」から分灯

※NPO 法人阪神淡路大震災一一七希望の灯りの方にご協力いただきました。

